— 観 察 記 録 —

長崎県対馬におけるスゲヨシキリ *Acrocephalus schoenobaenus* の日本初記録

正島和幸¹・正島喜美枝¹・高木慎介^{2,*}

¹ 〒 817-0015 長崎県対馬市厳原町西里 23-2

² 〒 441-8155 愛知県豊橋市芦原町字西上 116 ハイッ西上 B101

(2013 年 4 月 7 日受付；2013 年 6 月 18 日受理)

キーワード：スゲヨシキリ, *Acrocephalus schoenobaenus*, 長崎県, 対馬, 日本初記録.

日本鳥学会誌

Japanese Journal of
Ornithology

© The Ornithological Society
of Japan 2013

Kazuyuki SHOUSHIMA¹, Kimie SHOUSHIMA¹, Shinsuke TAKAGI^{2,*}. 2013. A record of Sedge Warbler *Acrocephalus schoenobaenus* on Tsushima, Nagasaki Prefecture; the first record for Japan. Jpn J Ornithol 62: 192–194.

Key words: Sedge Warbler, *Acrocephalus schoenobaenus*, Nagasaki Prefecture, Tsushima, First record.

¹ Nishisato, Izuhara-chou, Tsushima-shi, Nagasaki 817-0015, Japan.

² Heights Nishigami B 101, 116 Azanishigami, Ashihara-chou, Toyohashi-shi, Aichi 441-8155, Japan.

1. 種名：スゲヨシキリ *Acrocephalus schoenobaenus* 1 羽.

2. 観察者名：正島和幸・正島喜美枝.

3. 観察日時・場所：2012 年 9 月 1 日 14 時 50 分頃，長崎県対馬市厳原町小茂田 (34°13'38"N, 129°11'52"E).

4. 観察距離：20–25 m, デジタル一眼レフカメラに 500 mm のレンズを装着したものをを用いて撮影した.

5. 観察した環境：対馬は九州本土より北西に約 130 km, 朝鮮半島より南に約 50 km の位置にある. 対馬は上島と下島に分かれており, 小茂田地区は下島の西海岸にある. 対馬は山地地形が多いため広大な農耕地は少ないが, 小茂田地区には公害対策のため客土を行った水田が整備されている. 今回, スゲヨシキリ (以下, 本個体という) を観察した水田のすぐ脇には, 島内では比較的大きい河川である佐須川が流れている. 田植え時期が他と比較して遅く, 10 月半ばまで刈り取りがなされ

ないため, 伸長したイネ *Oryza sativa* に囲まれた畔はセジロタヒバリ *Anthus gustavi* やシマセンニュウ *Locustella ochotensis* などの潜行性の高い渡り鳥が利用することが多い. 今回, 本個体を観察した場所も伸長したイネに囲まれた畔であった.

6. 形態に関する記述：大きさは同時に観察したシマセンニュウよりも小さく, スリムな体型だった. 頭部から上尾筒にかけての体上面はオリーブ褐色で, 尾の上面は黒褐色であり, 背と肩には黒い縦斑が認められたが, 腰及び上尾筒には縦斑は認められなかった. 腮から下尾筒にかけての体下面は淡バフ色だった (図 1A, B). 頭部には明瞭な 2 本の黒い頭側線と淡バフ色の眉斑があり, 黒くて細い縦斑を伴った不明瞭な頭央線があった (図 1C). 各翼羽の軸斑は黒褐色で, 羽縁はオリーブ褐色だった. 嘴は細く, 上嘴と下嘴先端が黒褐色だった. 写真から読み取った特徴だが, 会合線と下嘴の基部は黄色かった. 虹彩は暗色であった. 過眼線は眼先から眼の後方へ伸びており, 下顎線があった. 最長三列風切からの初列風切の突出 (Primary Projection 以下, PP という) は長く見え, 画像から読み取ると最長三列風切羽の約

* E-mail: k6117824@kadai.jp

doi:10.3838/jjo.62.192

JOI:JST.JSTAGE/jjo/62.192

図1. 長崎県対馬で観察されたスゲヨシキリ (2012年9月1日. 撮影: 正島和幸).

Fig. 1. The Sedge Warbler observed on Tsushima, Nagasaki Prefecture on 1 November 2012 (Photographs by K. Shoushima.).

80%の長さだった。静止時に初列風切の先端は最長上尾筒の先端に達しており、翼の形状は直線的だった (図1A)。尾は短く感じられ、その形状は円型だった。 (図1A, B, D)。下尾筒は長く、最も短い最外側尾羽よりも若干短い程度に見えた (図1D)。跗蹠は黄色みを帯びた灰褐色だった。全身の羽毛が摩耗しており、尾は特に著しく、先端が汚損していた (図1A, B, C, D)。

7. 計測値：—

8. 種を同定した規準：前述した形態から考えられる種は、背に縦斑を持つ小型のセンニュウ属 *Locustella* や小型のヨシキリ属 *Acrocephalus* の種が考えられる。これらのうち、前者の種では本個体よりも凸尾であり、静止時の翼先の形状は丸みがあり、脚にピンク色みがある点が違い、形態が似ているヤチセンニュウ *L. naevia* は下尾筒に明瞭な軸斑があることから、マキノセンニュウ *L. lanceolata* は胸から脇及び、上尾筒及び下尾筒に明瞭な軸斑があることから、シベリアセンニュウ *L. certhiola* は中央一対を除く尾羽の先端に白斑がある点で異なり、また、シベリアセンニュウの亜種 *sparsimstriata*, *centralasiae* の一部個体以外には上尾筒に軸斑がある点からも異なる (Svensson 1992; Baker 1997; Beaman & Madge 1998; 真木・大西

2000; 五百沢ら 2004; Brazil 2009; Svensson et al. 2009; Kennerley et al. 2010; Van Duivendijk 2011)。一方、背に縦斑を持つ小型のヨシキリ属にはマミジロヨシキリ *A. melanopogon*, スゲヨシキリ *A. schoenobaenus*, ハシボソヨシキリ *A. paludicola*, セスジコヨシキリ *A. sorghophilus*, の4種が存在する (Baker 1997; Kennerley et al. 2010)。マミジロヨシキリは上面と脇、胸が赤褐色で、眉斑は白く目立って眼の後方で広がり、頭頂は全体が暗色で、脚は暗色、PPが露出三列風切羽の長さの30%程度であり、本個体よりも凸尾である点で異なる。また、顎線及び過眼線も本個体よりも明瞭である (Svensson 1992; Baker 1997; Beaman & Madge 1998; Svensson et al. 2009; Kennerley et al. 2010; Van Duivendijk 2011)。ハシボソヨシキリは体色の黄色みがより強く、明らかな淡色の頭央線を持ち、背の縦斑はより明瞭で暗色、その縦斑が腰にまで及んでいる。背の縦斑の脇には2本の淡色の広い線が縦に走り、足にピンク色みがあり、多くの個体で目先が淡色であり、顎線も不明瞭で、本個体よりも凸尾である点で異なる。また、成鳥では胸や脇に縦斑がある点でも異なる (Svensson 1992; Baker 1997; Beaman & Madge 1998; Svensson et al. 2009; Kennerley et al. 2010; Van Duivendijk 2011)。

セスジコヨシキリは頭頂部の縦斑が不明瞭で、頭側線が狭く、尾がより長く見え、PPが露出三列風切羽の長さの半分程度である点で異なる (Baker 1997; 五百沢ら 2004; Brazil 2009; Kennerley et al. 2010). スゲヨシキリはオリーブ褐色の上面、淡バフ色の下面、黒くて細い縦斑を伴った不明瞭な頭中央線、淡バフ色の眉斑、暗色な眼先、背と肩に縦斑があるが腰と上尾筒に縦斑がない点、縦斑のない下面、翼の形状が直線的でPPが最長三列風切羽の80%程度である点、尾が円形で短く感じられる点、灰褐色の跗蹠といった特徴を持つ。よって、スゲヨシキリのみ本個体と特徴が一致するため、本種と同定した。本個体は、全身の羽毛の摩耗が著しいことから、成鳥と考えられた (Svensson 1992; Baker 1997; Beaman & Madge 1998; Svensson et al. 2009; Kennerley et al. 2010; Van Duivendijk 2011). また、スゲヨシキリとハシボソヨシキリは、後者のほうが尾羽が細く、先端が尖っている点も識別点となるが、本個体は尾羽の摩耗が著しかったため、検討することができなかった (Svensson 1992; Baker 1997; Beaman & Madge 1998; Kennerley et al. 2010; Van Duivendijk 2011). なお、本種は単形種のため、亜種を同定する必要はない (Kennerley et al. 2010; Clements et al. 2012). 和名については山階 (1986) に従った。

9. 観察した行動：水田の畔でシマセンニュウを観察していたところ、その手前およそ2mの位置に飛来した。約2分間の観察時間だったために詳細な行動の観察はできなかったが、直前に降ったにわか雨のためか全身が濡れており、体を震わせて水滴を落とす動作や、付近にいたシマセンニュウとの小競り合いが観察された。シマセンニュウが飛び立ったのち、本個体も畔の少し奥に移動した後、イネの中に飛び込んだきり、姿を確認できなくなった。採餌行動や鳴き声は観察できなかった。

10. 写真の有無：あり (図1)。

11. 死体・標本保管場所：—

12. 過去の記録とその文献：これまで国内からの本種の記録はない。

13. その他：本種は国内での記録がないほか、Brazil (2009) によれば、東アジア地域での記録もなく、本記録が同地域での初記録となるが、本種はさらに東方のアラスカのセントローレンス島、

ギャンベルにおいて2007年9月30日に迷行記録がある (Pranty et al. 2008)。

14. 考察：本種は、旧北区西部の寒帯及び温帯から中央シベリア及び中央アジアで繁殖し、サハラ砂漠以南のアフリカで越冬する (Baker 1997; Kennerley et al. 2010)。本種が本来の生息地から大きく外れて対馬へ迷行した理由は不明だが、9月に記録されたことから越冬地へ向かう途中に迷行したものと推察される。

本稿をまとめるにあたり、大西敏一、渡部良樹の両氏には本稿について全般にわたり助言をいただいた。池長裕史、森岡照明の両氏には本種の同定について、梅垣祐介氏には本種のアラスカにおける記録をご教示いただいた。編集委員の橋本啓史氏、2名の匿名の査読者には本稿に関して適切な助言をいただいた。これらの方々はこの場を借りて深く感謝申し上げる。

引用文献

- Baker K (1997) *Warblers of Europe, Asia and North Africa*. Christopher Helm, London.
- Beaman M & Madge S (1998) *The Handbook of Bird Identification for Europe and the Western Palearctic*. Christopher Helm, London.
- Brazil M (2009) *Birds of East Asia: China, Taiwan, Korea, Japan, and Russia*. Princeton Univ Press, New Jersey.
- Clements JF, Schulenberg TS, Iliff MJ, Sullivan BL, Wood CL & Roberson D (2012) *The eBird/Clements checklist of birds of the world: Version 6.7*. (online) <http://www.birds.cornell.edu/clementschecklist/downloadable-clements-checklist>, accessed 2013-06-12.
- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2004) 日本の鳥550 山野の鳥増補改訂版。文一総合出版、東京。
- Kennerley P, Pearson D & Small B (2010) *Helm Identification Guide, Reed and Bush Warbler*. Christopher Helm, London.
- 真木広造・大西敏一 (2000) 日本の野鳥590。平凡社、東京。
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第7版。日本鳥学会、三田。
- Pranty B, Dunn J, Heinl S, Kratter A, Lehman P, Lockwood M, Mactavish B & Zimmer K (2008) Annual Report of the ABA Checklist Committee 2007–2008. *Birding* 40(6): 32–38.
- Svensson L (1992) *Identification Guide to European Passerines*. Published by the author, Stockholm.
- Svensson L, Mullaney K & Zetterström D (2009) *Collins Bird Guide 2nd Edition*. Harper Collins, London.
- Van Duivendijk N (2011) *Advanced Bird ID Handbook. The Western Palearctic*. New Holland Publishers, London.
- 山階芳麿 (1986) 世界鳥類和名辞典。大学書林、東京。